



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



## 札幌部会(第25回)

日時: 2021年1月30日(土) 15:00 - 17:00

場所: ZoomによるWeb会議

参加者: 17名参加

### 【内容要旨】

1. 川瀬雅之先生から、北海道の空港民営化を巡る『投資計画』教材開発の取組み④として、これまでのゲーミングではなく、課題研究型に組み替えた授業プランの構想(素案)が示された。北海道新聞(2021年1月20日朝刊)の「水曜討論」に掲載された加藤一誠先生の「コロナ下の空港民営化」に関する記事を授業の入口にすることを構想しており、ワークシートとルーブリック等の詳細については、次回の部会で示したいとのことであった。
2. 新井明先生から、大学入学共通テストの分析報告が行われた。報告の詳細については、2月のメルマガ「授業のヒント」(<https://econ-edu.net/2021/01/31/3242/>)を参照。報告後に栗原久先生や大倉泰裕先生を中心に問題の感想等の交流が行われ、生徒の目からしたら点数が取れば良い問題という評価をするのかもしれないが、教師は教科のねらいに沿って問題を検討し、実際に授業でどうするのかを考えていく必要があるという指摘が印象的であった。また経済学の視点からは、今回出題されたような内容を高校で押さえてくれば、大学初年度の経済学の入門授業はもっと掘り下げて行うことができるという感想も出された。
3. 志田光瑞先生から、「北海道における高等学校公民科「公共」に関するアンケート調査報告」のレジュメに沿って、北海道の各高校へのアンケートから、「公共」の設置状況を学科別、間口別(学級数別)に明らかにし、「公共」の指導に関する今後の課題に関する調査報告が行われた。報告後の意見交換では、「公共」と「地理総合」の内容かぶりをどうするか、2単位で実質55時間なので内容過多ではないか、中学校で先取りできる部分があるのではないかなど、主に高校と中学の視点から意見交換が行われた。
4. 東京証券取引所の鈴木深氏、岡部ちはる氏から、2021年度の夏休み経済教室については、オンライン開催を前提とし、東証からのライブ配信によって行うことが提案された。なお、2020年末の冬休み経済セミナー(オンライン開催)の結果が報告された。申込者属性は、高校教員が半数近くで中学校教員が4分の1強であること、教科は社会・公民系が半数以上、幅広い教職経験層から申込がなされており、初めて参加する人は7割以上を占めることなどが報告された。
5. 野間敏克先生から、2021年3月27日に行う「春の経済教室」(<https://econ-edu.net/wp-content/uploads/2021/01/2021.3HarukeizaiWebinar.pdf>)で行う講演②「金融に関する教科書記述と現実のギャップ」で取り上げる話題候補が示された。内容は、①様々なタイプのフィンテック、②金融政策手段と波及経路、③各国で研究の進む中央銀行デジタル通貨、④コロナ対応にみる金融と財政の関係などを予定しており、希望内容があれば、メールをいただければ対応するとのことであった。

〔文責:山崎辰也〕



経済教育ネットワーク  
Network for Economic Education



テスト問題  
(新テストなど)

中学

高校

指導案

新聞教材(NIE)

次回開催予定:2021年6月12日

議題 北海道の地域教材、経済に関する授業案の交流など